



目 次

| | | |
|--|-------------------|----|
| 支部長ごあいさつ | (60、S48年卒) 中西 憲幸 | 1 |
| 総会での話題提供①「新しい薬を作る：ドラッグリポジショニングー古くて新しい手法」 | (77、H2年卒) 齋藤みのり | 2 |
| 総会での話題提供②「薬剤師業務の新たな地平 一箱出し調剤、リフィル処方箋、検体検査」 | (60、S48年卒) 中西 憲幸 | 2 |
| 釣り | (109、H28年卒) 根橋 幸平 | 3 |
| ミャンマービールに舌鼓 | (109、H28年卒) 遠藤 宏祐 | 4 |
| 学生と社会人の時間の考え方 | (109、H28年卒) 小原 直人 | 5 |
| インドに赴任して | (84、H9年卒) 石崎 雅之 | 5 |
| 2か月間のUS暮らし | (84、H9年卒) 膝附 由香 | 6 |
| はるがきた | (78、H3年卒) 坂東 裕志 | 7 |
| 西荒介先生（旧 生物薬品製造学講座・教授）との思い出 | (66、S54年卒) 川崎 英之 | 8 |
| <故柿崎 直和 前支部長を偲んで> | | |
| 柿崎直和氏を追悼する | (48、S36年卒) 川上 惇 | 8 |
| 回想 | (56、S44年卒) 横山 司甫 | 8 |
| 柿崎さんの思い出 | (77、H2年卒) 山本 善一 | 9 |
| ゴルフクラブ便り | (55、S43年卒) 石橋 嘉夫 | 10 |
| 平成28年度首都圏支部活動報告・支部役員 | | 12 |
| 平成28年度会計報告、平成29度予算（案） | | 13 |
| 平成28年度 支部年会費納入者一覧 | | 14 |
| 編集後記 | | 17 |
| 平成29年度定期総会開催案内及び会場交通案内 | | 18 |
| 平成28年度首都圏支部総会集合写真 | | 19 |



1年を振り返って

富山薬窓会首都圏支部長（㊦、S48年卒） 中西 憲 幸

最近驚いたのは、C型肝炎の特効薬「ハーボニー配合錠」のニセ薬が薬剤師ではなく、患者さんの指摘によって発覚したことです。「ハーボニー配合錠」はヒートシールではなくボトルに入っているので、薬剤師が見過ごしたようです。薬局は正規の代理店ではなく、安く仕入れるために現金問屋から購入していました。現金問屋も医薬品を売買する資格を持っているので、現金問屋から仕入れることは違法ではありません。薬局の社長は、違法性のないことをしきりに強調していましたが、わが国で処方箋による調剤で偽薬が見つかったのは初めてで、薬剤師の信用を失墜させた責任は重大です。

オブジーボは高薬価が注目されていますが、添付文書を見て驚きました。主要文献にN. Engl. J. Medが4報、Lancet Oncolが2報、Cancer. Immunolが1報掲載されています。評価の高い科学雑誌が添付文書の引用文献になっているのは見たことがありません。一方、重大な副作用に間質性肺炎、重症筋無力症、I型糖尿病などがあります。素晴らしい薬効の裏には重篤な副作用もあり、医師と薬剤師の技量が問われる薬のようです。

副幹事長の㊦柿崎直和さんが平成28年7月29日に逝去されました。7月15日の三金会に参加された時は少し元気がなかったようでしたが、その後も仕事を続けられました。体調が崩れたので、入院されましたが、お見舞いに行く暇もなく、逝ってしまわれました。首都圏薬窓会では長年にわたり支部長を務められ、支部運営に大きく貢献して頂きました。合掌

今年の総会の話題提供は齋藤みのりさんと私、中西です。齋藤みのりさんからはドラッグリポジショニングについて話して頂きます。ドラッグリポジショニングとは、開発が途中で中止された化合物や発売済みの製品について、新たな適応を探索し製品化するという手法です。医薬品に要求される安全性基準が厳しくなる中、新薬開発の成功率は長期的に低下していると言われていています。効率改善の1つの手段として、ドラッグリポジショニングに期待が集まっています。

中西からは世界で標準的に行われている薬剤師業務のなかで、わが国では行われていない箱出し調剤、リフィル処方箋、検体検査にフォーカスをあて、共同研究で調査した内容を発表させていただきます。

総会には3年連独でフレッシュマンが参加しています。今年も3月23日に開催される富山大学薬学部卒業生主催の謝恩会に参加して、首都圏に就職する卒業生に総会に参加するようリクルートして参りました。

最後に多くの皆さま方からの年会費の納入にお礼申し上げますとともに、是非6月24日の支部総会にご参加ください。お待ちしております。

話題提供①

新しい薬を作る：ドラッグ リポジショニング —古くて新しい手法

(⑦、H2年卒) 齋藤(花山)みのり

昨年ほど、「医薬品の価格」が世間の話題に上がったことはなかったのではないのでしょうか。そしてオプジーボという医薬品の名前。

他社さんの製品でありながら、がんと闘う患者さんのための希望となった薬剤に、上市されるまでの担当者の知恵と協力を想像し、思いを馳せていたところ、価格の高さ、適応拡大による莫大な売り上げ、医療財政圧迫と経済性のみがクローズアップされていた風潮に、私自身は「患者さんにとっての薬の価値」が多少置き去りにされた感を感じていました。

さて、これまでも本支部総会で、新薬の研究開発についていろいろな知見をご披露いただき、私自身も多くの学びをいただきましたが、今回、最近多少話題になっているドラッグリポジショニング(DR)という手法に関しご紹介させていただきます。

これまで新薬を見出す手法と言えば、疾患の原因となるタンパクを見出し、その機能を調節する(過剰になっていたら抑制へ、不足していたら機能上昇へ)ような合成化合物や抗体を見つけ出し、長い研究開発期間を経て承認され患者さんに届く、というのが一般的でした。しかもその成功確率は低い。

今回お話しするDRとは、すでにA疾患に有効な作用を持つことが明らかなBという古い?合成化合物に対し、新たな評価方法によりCという疾患にも有効だという理論を構築して再度価値を与えよう、という手法です。もしB化合物がすでにヒトでの安全性が確認されていれば、9-17年かかるとされる研究開発期間が短縮され、すぐに患者さんでの有効性検証を行うことができるかもしれません。

DRとして研究開発期間が短縮されるとなれば、企業の研究開発費用は減ることが予想され、冒頭で述べた「医薬品の価格」も抑えられる可能性があります。これまでの事例を紹介すると、過活動膀胱治療薬「ベタニス」は当初糖尿病治療薬として開発を進めていたものを転用しています。また脳梗塞に用いる「ラジカット」がALS適用を取得、胃潰瘍用薬「ムコスタ」がドライアイ用点眼剤に、といった例は皆様も耳にされたのではないのでしょうか。

こういった「既存品に再度光を当てる研究」ともいえるDRが成り立つのも、先人たちが多くの化合物を作り出し、医薬品としての評価を継続してくれていたからこそです。日本に新薬創出型の製薬企業が存在し研究開発を続けていたこと、そして昨今iPS細胞等新たな評価手法を確立している日本の研究力は、DR研究の実行においても強みになるのではないかと考えます。

とはいえ、DRの世界も楽園ではなく様々な困難がありますが、「患者さんにとっての価値」をもたらす手法として、当日皆様とお話しできることを楽しみにしております。

話題提供②

薬剤師業務の新たな地平 —箱出し調剤、リフィル 処方箋、検体検査—

(⑩、S48年卒) 中西 憲 幸

60歳まで製薬企業で働き、退職後、薬剤師の教育や研修や研究を担う一般社団法人に勤務しています。諸外国の薬局の薬剤師業務の中で、欧米では実施されているが、我が国では未実施の箱出し調剤とリフィル処方箋と検体検査に関する共同研究を行い、一昨年学会で発表したところ、じほう社の目にとまり、「調剤と情報」の2016年3月号～9月号まで連載された内容を紹介します。

錠剤やカプセル剤などの小包装製品を直接

患者さんに交付する箱出し調剤は、欧州では一般的な調剤方法となっています。箱出し調剤は偽造医薬品を見破り、患者さん宅までのトレーサビリティを確保するために有効です。

箱出し調剤は医薬分業の歴史との関わりが深く、歴史的背景の異なるわが国や韓国では定着していません。箱出し調剤は国毎に少しずつ異なっており、イギリスでは医師は包装単位を尊重して処方し、ドイツでは箱の薬効と包装単位が定められており、服用日数を記載しない場合が多く、通常は箱の錠数を服用しきってしまいます。箱出し調剤では、処方が簡素化され、箱のサイズが規定されており、シンプルな調剤になります。メーカーの包装をそのまま活かすことにより、品質保証、情報提供の漏れがなくなり、強調すべき項目はラベルに記載し、箱に貼付します。外用薬や散剤はメーカーの既製薬品を活用しますので、混合などの計数調剤はほとんどありません。

諸外国のリフィル制度の特徴及び動向を調査し、我が国での分割調剤との相違点から課題を検証しました。リフィル制度は、先進国では日本、ドイツを除き多くの諸外国で実施されています。各国の共通点は「処方継続の可否判断は薬剤師が行う前提の制度」であると言えます。我が国の分割調剤制度ではその観点はなく、またほとんど活用されていません。リフィル調剤と分割調剤の制度の違いから利用者側にメリットが少ないことが原因の一つと考えられました。

日本で従来行われていた分割調剤は保管管理など製剤学的な問題に対して行われていました。それに対して、他国のリフィル調剤の処方継続可否は、薬剤師の臨床的な判断を必要としています。分割調剤ではその観点がなれないと思われます

一方、後発医薬品に係る分割調剤では、薬剤師として効果や副作用などを薬学的知見に基づいて総合的に判断し、指導を行っています。これは各国のリフィル制度と同様、処方

継続可否判断を薬剤師が臨床的に行っていると言えますが、分割調剤の実績も少なく、まだまだ薬剤師の臨床的な判断能力も十分であるとはいえません。

わが国では、2014年4月より検体検査測定室のガイドラインが策定されました。検体検査室で測定できるのはAST、ALP、 γ -GTP、中性脂肪、HDL、LDL、血糖、HbA1cの8項目です。届け出件数の推移をみますと、2014年4月の開始月に34件、その後順調に増加し、2015年1月時点で1,086件とピークを迎えましたが、それ以降は暫減傾向にあります。

諸外国の事例においては8項目以外の検査に関する文献も多数報告され、その効果が明らかにされています。クレアチニン値や骨密度の測定は、腎機能のモニタリングや骨粗しょう症のリスクを評価できることから、薬局における検査項目として重要であると考えられます。今後、チトクロムP450などの遺伝子多型を評価することもオーダーメイド医療を希望する患者にとっては必要なものになると思われる。

釣り

(☞、H28年卒) 根橋 幸平

幼少より、釣りをしている。高校までは、新潟の上越へ父と遠征し、鱈やシロギス釣りを堪能した。大学生時代は、ルアー釣りにどっぷりと浸かり、フクラギやガンドを筆頭にキジハタ、鱈、メバル、アオリイカ等々の釣りと料理を楽しんだ。西は氷見から東は朝日まで、走り回っていた。6年間で確実に100回は行っている。

2016年5月より東京で働いている。以前よりも海が遠くなり、釣りの機会はめっぽう減ってしまったが、時間を作り太平洋を堪能している。

館山

昨年8月に、会社のメンバーで1泊2日の釣り旅行へ行った。千葉県先端の館山である。

豪雨→炎天下というかなりシビアなコンディションであったが、50cmのフッコを筆頭に、ソウダ鯉、鰻、鯖、鯛といった多彩な魚を揃えることができた。ソウダ鯉は、背びれを出しながらルアーを追ってくるため、目で見ても面白い釣りである。釣った肴は、民宿にて塩焼やフライや刺身に調理して、日本酒と焼酎でいただくが、下手な料亭の料理よりも数段美味であることを特筆したい。フッコは塩だけを振って塩焼としたが、今まで食べた魚料理のうちの3本には入るであろう実力であった。今年は、静岡あたりで開催したい。

真鯛船

社会人となりお金に少しだけ余裕が出た&人気の釣り場は魚よりも人の方が多く非常に釣り辛いという状況から、最近は船釣りに挑戦している。先日、神奈川県茅ヶ崎の真鯛乗合船にてコマセ真鯛釣りに行ってきた。風の小春日和の大変穏やかな日に、まずは水深40mでスタート。船内では30~40cm程度の真鯛、黒鯛、石鯛などがぼつぼつと揚がる中、自分はアジのみで空振り。水深110メートルの深場に移動し、気を持ち直して挑むが、事件は起こらない。敗色濃厚なムードを匂わせてきた正午時、シーチキンおにぎりをほおぼっているタイミングでこの日一番のアタリ！合わせも決まり、真鯛特有の三段引きを堪能しながらやりとりし、40cmの肉厚真鯛をゲットできた。この後、真鰻、真鯖、小真鯛、シロサバフグを追加して納竿とした。これから先は、春ののっこみ真鯛のシーズンである。コマセかタイラバで80cmの老真鯛を釣り上げたいと思う。

アジ乗合船

会社の人や他社同期とアジ釣り船に出かけたこともある。鰻はだれがやっても釣れてくれる、食べても美味であるため、釣りが初めての人には特にウケが良い。船上刺身なんてこともできる。ただし、釣れすぎる・サイズが小さい・簡単すぎる等の理由で、個人的に行こうとは思わない。5kg10kgのカンパチとか、そういうのを狙ってみたい。

ミャンマービールに舌鼓

(Ⓜ、H28年卒) 遠藤宏祐

私は2016年3月に富山大学大学院を卒業いたしました、103回卒生の遠藤宏祐と申します。学生時代は病態制御薬理学研究室内の笹岡利安教授のご指導のもと、インスリンと中枢神経機能の関連について研究を行ってまいりました。現在は都内にある製薬企業（本社は関西）の安全管理部門にて副作用情報の評価等の業務を行っております。学生時代の基礎研究とは違い、医療の現場に近い分野での仕事になりますので、慣れない環境や自身の知識不足に苦しみましたが、頼もしい上司の方々のおかげで少しずつ慣れてきました。6月から東京配属が決まり、18年間慣れ親しんだ関東の気候のもとで暮らせる喜びを感じつつ、地元の群馬とはあまりにも違いすぎる都会感に戸惑いを隠せません。東京に住み始めて数週間後、薬窓会に初めて参加させていただきまして、企業、大学や病院などでご活躍されている偉大な先輩方とお話しする機会を得られ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。富山大学の先輩方のご活躍に感動するとともに、私ももっと頑張らねばと感じました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、標題の「ミャンマービール」ですが、ここに書く内容を思いつかなかったので、会社の研修で昨年11月に5泊6日でミャンマーに行った時のことを少しご報告させていただきたいと思います。事前の調査でミャンマービールが非常に美味しく、モンドセレクションで金賞を獲ったこともあるという情報入手していたため、到着した日の夜から早速ミャンマービールをいただきました。確かにおいしいです。料理も美味しく、ビールと料理の相性も抜群でした。一緒にミャンマーに行った方から「外国のビールやワインを飲むとその土地の文化や風土を感じることができる。」というお話を聞き、海外旅行の楽しみ方を新たに1つ学ぶことができました。なかなか

かミャンマーに行こうとは思わないかと思いますが、高田馬場が日本のヤンゴン（ミャンマー最大の都市）と言われているそうなので、みなさんもお興味があれば高田馬場でミャンマー料理やミャンマービールをご賞味ください。

最後になりますが、私も歴史ある富山大学の卒業生であることを誇りに、偉大な先輩方に負けないよう、日々精進してまいりたいと思います。今後とも何卒よろしく願いいたします。

学生と社会人の時間の考え方

(㊸、H28年卒) 小原直人

皆様、はじめまして。第103回卒生の小原直人と申します。大学時代、がん細胞生物学(旧毒性学)研究室所属で櫻井宏明教授のご指導のもと、がん細胞のシグナル伝達に関する研究を行っておりました。現在は、東京のCRO(開発業務受託機関)の臨床開発業務に従事しております。出身は兵庫県で、大学から富山県で過ごし、現在首都圏で生活しております。富山県で六年間冬に雪が降る生活を過ごしており、あまり雪が降らない首都圏の生活に慣れるのに時間がかかると思っておりましたが、ほとんど時間は不要でした。その理由は、出身の兵庫県でも雪が降る日が少なかったためであると考えております。

さて、今回本誌への寄稿の機会をいただき、社会人一年目として学生時代との考え方の変化について書かせていただきたく存じます。表題にもさせていただいておりますが、学生時代と比較し一番変化を感じたのは「時間」の考え方です。学生の頃は、時間を意識する機会が少なかったですが、社会人になってからは常に時間を意識して行動しているためです。

現在、臨床開発業務に従事し、どの業務にも締め切りが設定されております。一年目で感じる部分でしかありませんが、平日の限ら

れた時間の中でどの業務も期日内に完了させるためには、業務を効率的にかつ優先順位をつける必要があると考えております。

臨床開発業務では、病院の関係者の方々にお伝えしなければならない情報を入手した際、できる限り早くお伝えすることが求められます。この積み重ねが私と病院の関係者の方との信頼を築いていくだけでなく、会社としても病院ひいては社会に貢献することにつながると考えております。

今回、時間の大切さについて書かせていただいたのですが、もう一つ私が大事にしていることをお伝えさせてください。それは、「他者に感謝すること」です。臨床開発業務で、病院の関係者の方、治験にご協力いただいている患者様やその家族の方、社内の方等のご協力をいただき、お仕事をいただいていると感じております。また、首都圏支部総会や三金会にご出席されていた先輩方、お話をいただいた先輩方等に感謝しております。すべての機会から刺激をいただき、日々邁進しております。この場を借りて深く御礼申し上げます。

最後に、首都圏遠久朵で私のお話をさせていただく機会(時間)をいただきましたことに感謝申し上げます。三金会の皆様の発展と薬窓会首都圏支部の益々のご発展をお祈りいたします。

インドに赴任して

(㊹、H9年卒) 石崎雅之

薬に関してインドは世界のジェネリック医薬品の工場とも言われ、欧米に多く輸出しています。その理由としては、物質自体の特許を認めず製法が変われば製品化可能というインド特有の事情にあります。有用なものであれば共有すべきだという考え方に基づいているようで、宗教的観点など彼らの価値観の持ち方はすごく複雑です。薬の話に戻すと、インドの薬は国内や似た特許政策を行っている

新興国で生産・販売実績を積み、先進国での特許が切れるとジェネリック医薬品として生産準備はバッチリ！という状態で輸出されず。日本でもインドからのジェネリック医薬品が普通に使われるようになるかもしれません。

私は仕事の関係でニューデリーにある新薬の研究施設へ1年間赴任してきました。なぜインドで新薬研究？と思われる方がほとんどだと思います。それはさて置き、まず赴任が決まってから始めたのはワクチン接種のためのクリニック通いです。狂犬病、腸チフス、コレラなど日本では馴染みのない感染症を含む計8種のワクチンを3週間くらいの間に接種し、最後のころには注射が嫌になりました。また、現地ではいろいろなカルチャーショックを受けます。一般に知られていないところでは、納税や銀行口座開設などの書類を作成に必ず両親の情報も必要になる点です。家柄や身分を大事にするお国柄だからなのか、犯罪防止のためなのか。親の生年月日についてあれほど意識させられる機会は二度と無いでしょう。

インドへ行ってきたと言うと、必ず『お腹大丈夫だった？』と心配されます。どんなに注意してもお腹を壊しますので、旅行などを考えている方はお覚悟を。時間が経てば腸内菌叢が“インド仕様”に切り替わるので、余裕を持った旅程をお勧めします。衛生面など悪い面もありますが、人々はすごく自然体で生活していて、宗教行事等の文化や家族を大切に、行事は花で溢れるなど感性豊かで美しい面もあります。好みが分かれる国ですが、もし行く機会があれば是非楽しんでください！

2か月間のUS暮らし

(64、H9年卒) 膝 附 由 香

2016年9～10月にUSのHQのOfficeへ留学するため2か月間のUS暮らしをしました。9月

はNew Jersey州Rahway、10月はPennsylvania州のUpper Gwyneddというところにそれぞれ1か月滞在しました。

2か月間ずっとホテル暮らしでしたが、毎日外食では飽きてしまうので、スーパーで買い物をしてホテルの部屋のミニキッチンで簡単な調理をして食べることもありました。スーパーで売っているものとはにかく量が多く、牛乳が一番小さいパックでも0.5ガロン(約1.9リットル)です。野菜は日本のようにカットされた状態で売っているものはないので、カボチャやキャベツ、セロリなどは、丸ごと買うことになるので毎日食べても飽きないぐらい好きなものでないと買えません。ポテトチップスなどのスナックも一袋が大きいので、しける前に食べきろうと思うと...

また、どうしても納豆と豆腐が食べたくなくなりあちこちのスーパーで探しましたが、納豆は韓国系のスーパーでしか見つけられませんでした。冷凍で全商品輸入しているようですが、日本のよりもぼそぼそしていて、冷奴ではあまりおいしくなかったです。

行ったときは9月の初めでしたので、半袖でも暑いぐらいだったのですが、9月末から急激に寒くなり、10月中旬には霜が降りた日もありました。持参した秋物は着る時がないぐらい気温の変化が激しく、念のためと思って持参したウルトラダウンが大活躍。結局、持参した服だけでは対応できずアウトレットでたくさん買ったので、行きはかなり余裕があった2つのスーツケースは帰りにはパンパ



ンになってしまいました。でも、New Jersey州では衣類は税金がかからないので、結構良いお買い物でした。

移動手段としてレンタカーを借りて運転していたのですが、当然ながら右車線です。右車線には割とすぐ慣れ、赤信号で右折のために停車していたら後ろの車からクラクションを鳴らされました。その時はなぜ鳴らされたのかわかりませんでした。後で周りに聞いたら、右折禁止の表示が出ていない場合は赤信号であっても右折して良いとのこと。どうやら「早くいけよ！」のクラクションだったようです。あと、夜の運転は動物が飛び出してくるので注意しろとよく言われました。たしかに、リスとシカはよく見かけました。

旅行に行ったときには気付かなかったけど、短期間でも住んでみたら気づくこともたくさんあり、長いようで短い充実した期間を過ごせました。

はるがきた

(㊸、H3年卒) 坂 東 裕 志

「春」。ただの季節を表す単語なのに何だかいい言葉に思える。去年の一字である「金」なんかよりもよっぽど嫌らしさが無く、いい言葉に思える。外はまだ寒いし、花粉症はつらいし、異動で飛ばされる人もたくさんいる。実際には、あまり好きじゃない人もたくさんいると思う。でも春と言えばやっぱり語感がいいのである。その理由はきっと冬の次に来る季節だからなんだと思う。春が決してベストシーズンという訳ではなく、冬との比較でいったら悪くないかなというだけなのではないだろうか？嫌われ者の冬さんの隣にいるから春さんはいい人に思われるのである。別に春がナンバーワンでもオンリーワンでもないのに。逆に単に寒いという理由だけで嫌われ者になってしまう冬が可哀そうである。クリスマスがあって正月があって、スキーができて、鍋がおいしくて、炬燵があったかくて。

いいところだっていっぱいあるのに。みんな冬も褒めてあげてください。きっとやればできる子ですから。

ところで春である。春が来たのである。

他人から見れば、私には年中春が来ているようなものに思われるかもしれないが、そんな私でも大学に入るときには、春が来たなど思ったはずである。もうあまりにも昔過ぎて、あんまり覚えていない。私が大学に入ったのは、もう30年も前。まだまだ気持ちは若いつもりでも、あれから30年も経ってしまった。髪が薄い、白髪が増えたと表面上の事だけで済んでいるうちはよかったけれども、最近はどうも中身のほうも随分と衰えているのを感じる。クイズ大好き少年だった私も、気づけば1日一緒にいた人の名前を次の日に思い出せないような状況である。体も全然動かないし、痛いし、臭い。頭も体も随分と年を取ったものである。もう私には冬とは言わずとも秋が訪れているのかもしれない。

そんな中、先日家に春が来たらしい。長女がどうも大学というものに合格したようである。

父(私)のいる東京での生活の始まりである。しかし父が東京にいるからという理由で彼女が東京に出てくるわけでもないし、ましてや一緒に住むわけでもない。決して私も嬉しくない訳ではないのだが、どうも素直に喜べないのである。

それはなぜか。考えてみれば実に分かりやすい。

全く恥ずかしい話ではあるが、結局、寂しいのである。親の手からどんどん離れていく君を見るのが。

春は出会いと別れの季節。これを繰り返し人は成長していく。その成長を見守るのが親の役目だろうけどパパは寂しいよ。ぐすん。

でも寂しがってばかりもいられないので私も春を探しに行こうかなとも思うが、この年になって春を探しに行くというと人から白い目で見られそうなので、流行遅れだけど「金」でも探しに行きましようかね。まずは宝くじ

売り場にでも行ってみるか。

きっと「金」を持ってない坂東に比べれば「金」を持ってる坂東の方がいいはずだから。

西荒介先生（旧 生物薬品製造学講座・教授）との思い出

（⑥⑥、S54年卒） 川 崎 英 之

2016年5月28日、西研の先輩より西荒介先生ご逝去（享年88歳）との連絡を受け本当に驚きました。ご退官後、奥様と大好きなご旅行を楽しまれておられましたし、毎年OB会でお会いし『元気でやっとなるか？』と声をかけていただくのを楽しみにしていました。一昨年からは体調を崩され入院されておりましたが、突然のお別れとなり残念でなりません。

先生との出会いは専門課程の授業、当時バイトばかりで授業に出ない不真面目な学生で進路も何も考えていませんでしたが、先生の分子生物学の講義、夢のあるお話に引きつけられ、縁あって4年次から修士まで3年間お世話になりました。研究室はオープンで、いつも「お茶のみ場」に集まりお酒を飲みながらワイワイガヤガヤと皆で議論するのを楽しまれ、何度もご自宅でお世話になったのも懐かしい思い出です。昨年11月OB33名が東京に集いご子息共々偲ぶ会を開催することが出来ました。西先生に感謝しつつ、これからも先生が作られたこのつながりを大切にしたいと思えます。ご冥福をお祈りいたします。

柿崎直和氏を追悼する

（④⑧、S36年卒） 川 上 惇

柿崎氏が亡くなったのは7月30日でしたが、その一か月前に彼と一緒に箱根・仁ノ平温泉に行き、夕食後に彼はカラオケで元気に歌っていました。二週間前の「薬多津三金会」で、東池袋の牛タン屋に集まり懇談をしましたが、その時に腹が痛いといい、酒も料理も

控えめにしていました。その後も薬局勤務をしたそうですが、腹の痛みは治らず、一週間前に入院し、そのまま帰らぬ人となりました。あまりにも突然のことで今でも彼の死を受け入れることが出来ません。

柿崎氏の富山薬窓会への貢献については皆さんがよくご存知です。首都圏支部長として財政の苦しい中、外注による案内状発送を導入して総会・懇親会を開催し、会報「首都圏支部遠久朶」の発行、ゴルフ親睦会の開催などに取り組みました。

かつて薬学部の学生寮は岩瀬浜にありましたが、彼の時代に終了し五福の学生寮に統合されたと聞いています。松林の中のおんぼろ寮はOBには懐かしく、「遠久朶寮OB会」を開くことになった時に彼が中心になって開催されました。いつもみんなの先頭に立ち積極的に会員を引っ張って、同窓生の絆づくりに尽力してくれました。

私は、大学でも会社でも何年か先輩だったことで仕事以外にゴルフ同好会、ウォーキングの会、クラシック音楽鑑賞、邦楽鑑賞などに一緒に参加しました。そのあとにはいつも反省会（飲み会）を開き、彼が仕切ってくれました。本人は途中で眠っていても会計時にはちゃんと起きて会費を集め、きちんと支払いをしてくれました。彼の人柄から、みんなが集まり、話が盛り上がり、楽しい会合になりました。

いい人から先に亡くなってしまうことが残念でなりません。ご冥福を祈ります。

合掌。

回 想

（⑥⑥、S44年卒） 横 山 司 甫

旧寮で出会ってから、ICUで最後を看取るまで50年。

柿崎君は向上心に富み、気持ちがやさしく、誰のためにも労を厭わなかった。大学の入学時には各運動部が盛んに入部の勧誘をする。

二人で歩いていると、「オッ、いい体をしているな」と柔道部に声をかけられた柿崎君。「やったら」と勧めると未経験だったが即決断した。経験者の多い新入部員の中できついことも多かったろうに、黒帯まではと専門課程に進むまで熱心に鍛錬をしていた。

2回生になると旧寮は最後の新入生を迎えた。歓迎会は屋内でさんざん飲んでから、裏の岩瀬浜に用意したキャンプファイヤーを囲んで歌い走り回る。宴は歓迎の意で新入生を春の海に投げ込んで終わる（よく事故が起きなかったものだ）。その後、近くの銭湯に出かけて体を洗うのだが、後輩のH君が言う。柿崎先輩はふらつく新入生たちに銭湯まで付き添い、風呂場では塩水と砂でべたつく体を流してくれたと。

私自身も随分と助けられた。会社設立時には、子育てでお金のかかる時期にも関わらず、いくらでも出すよと言って出資してくれた。新しいことを始める身にはお金以上に心強かった。その後も製品説明の文章構成や発注等のこまごましたことから、会社の方向まで相談にのってもらっている。

6年前の夏、「わが身に何かあった時には、後を頼む」と先を話題に歓談したその夜、脳障害で倒れ入院した。幸いにも回復は順調に進み、指先が少ししびれる程度と言うまになっていた。仕事の合間には、奥さんと近くの本屋さんへ出かけて興味の趣くままに沢山の本を買い込み、二人で耽読していたそうだ。

そんな矢先、突然だった。2016年7月30日、ICU室。「カキザキ！」と呼ぶと、モニター画面の波形だけが動いた。病室には読みかけの文庫本と愛用の扇子があった。本カバーの模様は扇子と同じく、幸せが訪れると言っていたトンボだった。葬儀ではカメラマンの息子さんによる遺影が、ご家族で設えた祭壇から笑顔をおくっていた。

ありがとう、柿崎君。50年のつきあいを。

応援してくれた夢をもう少し成してから、そちらへ行く。

柿崎さんの思い出

(㊦、H2年卒) 山本善一

諸先輩方が多数いる中で大変恐縮ではありますが、ここに会社の大先輩である柿崎さんの思い出をしたためたいと思います。いろいろ振り返ってみると、まず最初に思い浮かんでくるのは、労働組合の組合長（専従）としてご活躍されていた柿崎さんです。ちょうど私が第一製薬に入社した頃の頃、新人には組合とは何をするとするか、よくわからない時期ではありましたが、組合から発刊される機関紙の後ろのページの一番下には、『組合長柿崎直和』との記載があったのを今でも強く印象に残っています。組合長になると将来はえらくなられるから、と当時の身近な先輩から教えてもらったことが妙に懐かしく思い出されます。まさに柿崎さんは、私のような後輩から見て、その流れをそのまま進まれ、会社人生を全うされたのではないかと思います。

また当時は1年に1回、大学OBの集まり、雷鳥会が開催されていました。今でも首都圏支部で大変お世話になっておりますが、会社の各部署の重鎮の先輩方が多数集まっておられ、柿崎さんはそのような集まりを非常に大切にされており、お忙しい中であっても、ほとんど毎年参加されていた記憶があります。私はバブル最期の入社であったので、後輩がなかなか入らず、その会の若手の幹事を何年間か続けてさせられた記憶があり、柿崎さんは本当に人付き合いがよく、また私のような後輩の面倒もよく見ていただきました。

そういった中、柿崎さんとは仕事での接点が1度だけありました。確か東北の支店長をなされている時に、秋田大のある先生をご紹介いただき、東京から秋田への日帰り出張をしたことがあります。当時、実家の富山で私の親父が入院しており、いつ死んでもおかしくない状況で、柿崎さんは、そういった私を気遣っていただき、お忙しい中、支店長車で秋田空港まで送り届けていただいたことは今

でも忘れることができません。その週末に富山に一旦帰省し、最後に親父の顔を見ることが出来たことを、それからもう20年近く経とうとしているにも関わらず、つい先日のように思い出されます。

柿崎さんには雷鳥会、首都圏支部総会、と顔を合わせれば必ず声をかけていただきました。昨年2月、首都圏支部の案内状を封筒に入れる手伝いで日本橋の会社近くの会場でお会いした際、柿崎さんが一人先に会場にいらっやっていました。私は最初拝見した時、すぐに柿崎さんとはわからず、柿崎さんの方から声をかけていただき、ようやく柿崎さんと理解ができました。年は同じくとりますが、私の頭の中での元気な柿崎さんとはその時はちょっと違って見えたのかな。その際は大変失礼を致しました。また、その後の6月の首都圏支部の総会では、会場の一番後の席にいらっやったので、その隣に座らせて頂きました。それからまもなく7月末の突然の訃報をお聞きし、びっくりしたと同時に、これから元気で人付き合いのいい、特に後輩に対して面倒見のいい柿崎さんにお会いできないと思うと大変残念でなりません。これからも天国より、温かく見守っていただきたいと思えます。ありがとうございました。

ゴルフクラブ便り

富山薬窓会ゴルフクラブ事務局として悲しい報告をしなければなりません。

20年前50歳を迎えた頃、常時開催されていたコンペで上位入賞を果たされていた55回卒の柿崎直和氏が平成28年7月30日に帰らぬ人になってしまいました。また、事務局を永年支えてくださっていた40回卒の千原秀夫氏から事務を引き継ぎ、同期の石橋と共に事務局をサポートし、特に石橋が家庭の事情で支援できない7年間、脳梗塞という重い病気を克服しながら、当会の運営に多大の尽力を果たしていただきました。ここに心より哀悼を奉

げたいと思います。

平成28年5月に第88回を迎えた会に石橋が復帰し、事務局をサポートすることになりました。また、新しいスタッフとして58回卒の石井誠司氏が事務局を支援してくれることになりこの上ない喜びです。

さて、第88回の報告を申し上げます。平成28年5月26日筑波山の麓の筑波東急カントリークラブにて開催しました。当初雨模様でしたが、スタートのころはベストの状況になりプレイができました。特に今回から参加してくれました89回卒の伏木洋司君が若々しいショットでおじさん方を元気付けました。成績は47回卒の小国益男さんがBG優勝を果たしました。準優勝は56回卒の都筑正明さん、第3位は45回卒の橋浦十八さん、BBは55回卒の井上満子さんとなりました。毎回のように懇親会は先輩、後輩の垣根なく和気藹々一日をプレイできたことを心より楽しみ燦々次回開催を楽しみながら解散しました。

事務局からの連絡です。初めてコースへ出る方も先輩が懇切丁寧に教えてくれます。ゴルフは楽しいものです。ぜひ参加してみてください。また、お住まいなど変更がありましたら事務局石橋の携帯 090-7803-1872 まで。

(事務局：㊟、S43年卒 石橋 嘉夫)



100字通信

㊟、S26年卒 大澤 弥生
—柿崎さんの訃報を聞いて—私と柿崎さんの接点はゴルフ首都圏同好会です。三人いる

優勝者の一人で全く元気でした。千原さんの後、継続して会の面倒をよく見て下さり有難く思っていました。ご冥福をお祈り致します。

④⑩、S28年卒 眞船 恒雄

私の回顧録から「薬学部を卒業、富山を去る最後の日28. 4. 2 富山駅1番ホームに横田学長ご夫妻を始め多数の先生、先輩後輩に見送られ、急行日本海は「蛍の光窓の雪・・・」のメロディーに乗って、北へ向け滑り出した。ぐっ！と来た瞬間であった。」(注) その時の富山駅長は、薬専出身の方でした。

④⑩、S32年卒 高木 良造

富山大スキー部OB会は、毎年、夏と冬に都内で飲み会を実施しているが、縁あって、昨年12月は、タイのバンコクで忘年会を実施した。世界遺産のアユタヤーや水上マーケット、市内の寺院や王宮を観光し、食事も美味しく楽しんで来た。

④⑩、S35年卒 市中 滋郎

昨年末に傘寿を迎え、両親の生存齢を越え、高齢化社会を実感致しており、ボケ防止にと孫のCBT問題集にチャレンジして学問と教育カリキュラムの進化に驚いています。相不変、下手な写真とゴルフで暇を潰しています。

④⑩、S37年卒 土方 久家

トランプアメリカ新大統領は日本の医薬品グローバル企業(武田等)に対して問題にしている。それらは持ち株100%のUSA法人を設立して臨床実験をしてFDAに許可申請をしてUSAに生産、販売の許可を得ているからです。逆に国内のファイザー製薬はM&Aで工場社員等会社ごと全部買いましたのでUSA国内に工場がなく雇用増えていないので、工場を作るように大統領令にて指導した。

④⑩、S41年卒 岩崎 孝一

水泳を始めてから約1年10ヶ月、初級クラスで生徒数9名常時出席者は6名前後、週3

回1時間のレッスンです。当初のヘリコプターから前進する様になり何とかクロールをマスターしつつあります。目標はマスターズ。

④⑩、S44年卒 横山 司甫

スキー同好会は医薬大スキー部に引き継がれて20年続いた。OB会は16名が赤倉温泉に集合。チェロ演奏で始まった夜の部は、奏者談義から百名山や病理学まで多彩な話題が披露され学生時代を思わせる休日となった。

④⑩、S46年卒 千田 耕平

近況 退職と同時に始めました精神障害者のグループホームで貴重な社会経験を積んでいます。利用者の多くが家族の問題を抱えていることを実感しています。病気は社会的な要因が色濃く反映していますね。いわゆる負の連鎖でしょうか？恵まれた私達が支援しなければいけないとの思いを持つようになりました。

④⑩、S48年卒 中西 憲幸

「キョウイク」と「キョウヨウ」

学生時代にカップブックスより多湖輝氏の「頭の体操」シリーズが刊行され、わくわくして読んだことを思い出しました。その多湖輝氏が「100歳になっても脳を元気に動かす習慣術」で「キョウヨウ」と「キョウイク」が秘訣であると書かれています。教養と教育ではなく、「今日、用がある」と「今日、行くところがある」の二つです。

④⑩、S54年卒 道見 茂樹

今年も家庭菜園の話題から。ミニトマトは、毎年こぼれ種から発芽した苗を利用していたのですが、久々に市販苗(アイコ)を購入しました。とても甘い実で収量も多く、家庭菜園での人気No. 1の苗だということを実感しました。

〈昨年受信分〉

㉟、S26年卒 米丸 洋子

昨秋森田直賢先生の訃報に接し、心から冥福を祈りました。先生は私達39回生の3年先輩で、中沖生薬学教室の助手として実習の指導に当たって頂きました。温厚且つ真摯な御指導で、顕微鏡スケッチ等で四苦八苦させられたものです。なお、平成20年濟州島植物観察の旅には桔梗会の有志も同行し、良い思い出をいただきました。

㊱、S46年卒 千田 耕平

退職後の良いタイミングで、精神保健福祉の分野の仕事を開始することが出来ました。福祉が主となるお仕事ですが、これまでの経験が大いに役立ちました。色々あったのですが、現在、充実した日々を送っています。

㊲、S24年卒 故石田博 ご家族様から

ご案内開封致しました。夫は1月4日、法名教学院積博道、となりましたことお知らせいたします。2月3日の新聞にて叙位叙勲を受けることになりました事を知りました。生前のご厚情心より、お礼申し上げます。

平成28年度 首都圏支部活動報告

1. 定期総会

平成28年度首都圏支部定期総会

平成28年6月25日(土) ビジョンセンター東京

2. 幹事会

第1回幹事会:

平成28年11月2日(水) ビジョンセンター東京

第2回幹事会:

平成29年2月8日(水) ビジョンセンター東京

3. 平成29年度薬窓会首都圏支部総会案内状送付:

平成29年2月9日発送

4. 平成28年度薬窓会本部総会・卒業謝恩会:

平成29年3月23日(水) 中西、阿部

5. 平成28年度薬窓会近畿支部総会:

平成28年6月19日(日) 阿部

6. その他

①薬多津三金会(毎月第三金曜日開催)

於: 多津よし(東池袋)

②五福会 5月18日(水)

於: 東京富山会館

11月22日(火)

於: 東京富山会館

話題提供:

道見「OTC医薬品のセルフメディケーション減税新設」

阿部「ジェネリックvs格安スマホ & LCC: 安さ以外は似て非なるもの」

③関東越嶺会(経済学部)総会

9月16日(金)

於: アルカディア市ヶ谷 中西

④関東越嶺会新年会

1月25日(水)

於: 東京富山会館 中西

総会参加者・年会費納入者推移

| | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 総会参加者 | 84名 | 71 | 64 | 69 | 61 |
| 年会費納入者 | 278名 | 237 | 282 | 292 | 300 |

平成28年度 首都圏支部役員

支部長 : S48年卒 中西 憲幸

副支部長 : S46年卒 加藤 健二

H8年卒 平岡 良隆

幹事長 : S54年卒 道見 茂樹

副幹事長 : S43年卒(故) 柿崎 直和

S61年卒 阿部 浩之

H2年卒 紺谷 徹

監事 : S47年卒 松本茂外志

平成28年度会計報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

| I. 収入の部 | | | 単位 円 |
|--------------|-----------|-----------|------|
| 項 目 | 予 算 | 実 績 | |
| 前年度繰越金(普通預金) | 4,770,322 | 4,770,322 | |
| 年会費 | 400,000 | 358,170 | |
| 総会参加費 | 500,000 | 359,000 | |
| 普通預金利息 | 500 | 69 | |
| 合 計 | 5,670,822 | 5,487,561 | |

| II. 支出の部 | | | 単位 円 |
|--------------|-----------|-----------|------|
| 項 目 | 予 算 | 実 績 | |
| 総会費 | 450,000 | 398,628 | |
| 会合費(幹事会等) | 80,000 | 50,168 | |
| 事務通信費 | 100,000 | 113,740 | |
| 同好会補助費 | 40,000 | 0 | |
| 会報発行費 | 450,000 | 397,564 | |
| 出張費 | 90,000 | 90,000 | |
| 事務局費 | 100,000 | 64,800 | |
| 次年度繰越金(普通預金) | 4,360,822 | 4,372,661 | |
| 合 計 | 5,670,822 | 5,487,561 | |

平成29年度予算(案)

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|--------------|-----------|--------------|-----------|
| 項 目 | 金 額 | 項 目 | 金 額 |
| 前年度繰越金(普通預金) | 4,372,661 | 総会費 | 450,000 |
| 年会費 | 400,000 | 会合費 | 60,000 |
| 総会参加費 | 500,000 | 事務通信費 | 120,000 |
| 普通預金利息 | 100 | 同好会補助費 | 60,000 |
| | | 会報発行費 | 450,000 |
| | | 出張費 | 90,000 |
| | | 事務局費 | 100,000 |
| | | 次年度繰越金(普通預金) | 3,942,761 |
| 合 計 | 5,272,761 | | 5,272,761 |

平成28年度 支部年会費納入者一覧

(合計 300名)

※平成28年5月から平成29年3月末までに年会費を納入された方の一覧です。

| 回 | 年卒 | 氏名 | 回 | 年卒 | 氏名 | 回 | 年卒 | 氏名 |
|----|------|-------|----|------|-------|----|------|-------|
| 27 | 昭和14 | 片桐昌義 | 44 | 昭和32 | 鈴木芳子 | 48 | 昭和36 | 油木劭之 |
| 28 | 昭和15 | 岩崎光一 | 44 | 昭和32 | 関 忠彦 | 48 | 昭和36 | 川上 惇 |
| 31 | 昭和18 | 渡会春雄 | 44 | 昭和32 | 高木良造 | 48 | 昭和36 | 久保一夫 |
| 34 | 昭和21 | 織井文貞 | 44 | 昭和32 | 高瀬清孝 | 48 | 昭和36 | 久保春子 |
| 35 | 昭和22 | 野村哲夫 | 44 | 昭和32 | 林 吉孝 | 48 | 昭和36 | 熊木健治 |
| 35 | 昭和22 | 今田 清 | 45 | 昭和33 | 荒木紀子 | 48 | 昭和36 | 定留温子 |
| 37 | 昭和24 | 山口輝夫 | 45 | 昭和33 | 大郷利治 | 48 | 昭和36 | 高橋芙美子 |
| 37 | 昭和24 | 大和宗雄 | 45 | 昭和33 | 児玉英篤 | 48 | 昭和36 | 樋口明彦 |
| 37 | 昭和24 | 松岡邦衛 | 45 | 昭和33 | 佐藤 忠 | 48 | 昭和36 | 船場定信 |
| 38 | 昭和25 | 河津光高 | 45 | 昭和33 | 佐藤池鶴子 | 48 | 昭和36 | 前田伸子 |
| 38 | 昭和25 | 津田照明 | 45 | 昭和33 | 佐野健治 | 48 | 昭和36 | 村杉和子 |
| 38 | 昭和25 | 深井三郎 | 45 | 昭和33 | 新森信正 | 48 | 昭和36 | 吉田誠一郎 |
| 39 | 昭和26 | 米丸洋子 | 45 | 昭和33 | 橋浦十八 | 48 | 昭和36 | 吉田光昭 |
| 40 | 昭和28 | 千原秀夫 | 45 | 昭和33 | 古谷 隆 | 49 | 昭和37 | 小川信吾 |
| 40 | 昭和28 | 眞船恒雄 | 45 | 昭和33 | 松岡慶子 | 49 | 昭和37 | 鈴木国男 |
| 41 | 昭和29 | 志甫 正 | 46 | 昭和34 | 尾嶋司郎 | 49 | 昭和37 | 関戸将裕 |
| 41 | 昭和29 | 前川 昶 | 46 | 昭和34 | 川畑耕祐 | 49 | 昭和37 | 林 幸子 |
| 41 | 昭和29 | 松田利子 | 46 | 昭和34 | 齊藤諒三 | 49 | 昭和37 | 土方久家 |
| 41 | 昭和29 | 基常弘晃 | 46 | 昭和34 | 竹腰時男 | 49 | 昭和37 | 廣江光代 |
| 41 | 昭和29 | 上銘外喜夫 | 46 | 昭和34 | 西岡碩枝 | 49 | 昭和37 | 古谷 孝 |
| 42 | 昭和30 | 荒川泰藏 | 46 | 昭和34 | 森 哲朗 | 49 | 昭和37 | 三尾美和子 |
| 42 | 昭和30 | 佐藤哲男 | 47 | 昭和35 | 伊勢谷篤弘 | 49 | 昭和37 | 見義治子 |
| 42 | 昭和30 | 佐藤正美 | 47 | 昭和35 | 市中滋郎 | 50 | 昭和38 | 秋本紀子 |
| 42 | 昭和30 | 種谷 豊 | 47 | 昭和35 | 梅原 弘 | 50 | 昭和38 | 飯田武治 |
| 43 | 昭和31 | 上野謙爾 | 47 | 昭和35 | 京泉清男 | 50 | 昭和38 | 木原幸弘 |
| 43 | 昭和31 | 落合信雄 | 47 | 昭和35 | 倉石弘一 | 50 | 昭和38 | 定塚紀志子 |
| 43 | 昭和31 | 久郷正孝 | 47 | 昭和35 | 須藤昌二 | 50 | 昭和38 | 高野祐子 |
| 43 | 昭和31 | 車田知之 | 47 | 昭和35 | 関 誠 | 50 | 昭和38 | 武石万里子 |
| 43 | 昭和31 | 元田 修 | 47 | 昭和35 | 並木英明 | 50 | 昭和38 | 野中美代子 |
| 43 | 昭和31 | 古徳 治 | 47 | 昭和35 | 野田久正 | 50 | 昭和38 | 福田昌平 |
| 43 | 昭和31 | 作田 充 | 47 | 昭和35 | 室生知子 | 50 | 昭和38 | 前田一郎 |
| 43 | 昭和31 | 本多 存 | 47 | 昭和35 | 安川正巳 | 50 | 昭和38 | 宮澤英雄 |
| 43 | 昭和31 | 山岸伸郎 | 47 | 昭和35 | 安川椒子 | 50 | 昭和38 | 脇谷紀代子 |
| 43 | 昭和31 | 脇田秀雄 | 47 | 昭和35 | 若林庸夫 | 51 | 昭和39 | 石塚典子 |
| 44 | 昭和32 | 井沢ノブ | 47 | 昭和35 | 橘 眞郎 | 51 | 昭和39 | 加賀美壯一 |
| 44 | 昭和32 | 紙谷得子 | 47 | 昭和35 | 城宝史郎 | 51 | 昭和39 | 島田庄蔵 |
| 44 | 昭和32 | 車田千秋 | 48 | 昭和36 | 安宅久弥 | 51 | 昭和39 | 島田輝子 |

| 回 | 年卒 | 氏名 | 回 | 年卒 | 氏名 | 回 | 年卒 | 氏名 |
|----|------|--------|----|------|-------|----|------|-------|
| 51 | 昭和39 | 諏訪庸夫 | 55 | 昭和43 | 井上満子 | 60 | 昭和48 | 田谷栄子 |
| 51 | 昭和39 | 塚越由美 | 55 | 昭和43 | 奥村啓輔 | 60 | 昭和48 | 中島徳子 |
| 51 | 昭和39 | 那須邦久 | 55 | 昭和43 | 山口節子 | 60 | 昭和48 | 中西憲幸 |
| 51 | 昭和39 | 古市泰宏 | 56 | 昭和44 | 加藤正子 | 60 | 昭和48 | 水野洋子 |
| 51 | 昭和39 | 古市郁子 | 56 | 昭和44 | 金 知出 | 61 | 昭和49 | 梶谷早苗 |
| 51 | 昭和39 | 宮城征子 | 56 | 昭和44 | 三石史郎 | 61 | 昭和49 | 清永城右 |
| 52 | 昭和40 | 小野澤カツ子 | 56 | 昭和44 | 山本 恵 | 61 | 昭和49 | 和田健司 |
| 52 | 昭和40 | 是枝 潤 | 56 | 昭和44 | 加藤正子 | 62 | 昭和50 | 田島明美 |
| 52 | 昭和40 | 廣瀬南海子 | 57 | 昭和45 | 天笠之珠子 | 62 | 昭和50 | 西山信右 |
| 52 | 昭和40 | 星野洋子 | 57 | 昭和45 | 中島和彦 | 62 | 昭和50 | 萩野洋子 |
| 53 | 昭和41 | 安西慶子 | 57 | 昭和45 | 服部 仁 | 63 | 昭和51 | 石井由美 |
| 53 | 昭和41 | 岩崎孝一 | 57 | 昭和45 | 藤村元成 | 63 | 昭和51 | 泉 眞美 |
| 53 | 昭和41 | 木村信子 | 57 | 昭和45 | 松林久一 | 63 | 昭和51 | 高橋裕子 |
| 53 | 昭和41 | 坂本理英子 | 57 | 昭和45 | 奥村淳子 | 63 | 昭和51 | 萩野幸司 |
| 53 | 昭和41 | 中村和子 | 57 | 昭和45 | 古屋典子 | 63 | 昭和51 | 本郷富江 |
| 53 | 昭和41 | 中山裕江 | 57 | 昭和45 | 米澤伸子 | 63 | 昭和51 | 和田仁美 |
| 53 | 昭和41 | 林 聰 | 57 | 昭和45 | 林 茂寛 | 64 | 昭和52 | 河村光恵 |
| 53 | 昭和41 | 深田和代 | 58 | 昭和46 | 石井誠司 | 64 | 昭和52 | 真船英一 |
| 53 | 昭和41 | 曲淵徹雄 | 58 | 昭和46 | 石田行知 | 65 | 昭和53 | 大内恵子 |
| 53 | 昭和41 | 南 法夫 | 58 | 昭和46 | 上田宗央 | 65 | 昭和53 | 大岸洋子 |
| 53 | 昭和41 | 村上則彦 | 58 | 昭和46 | 加藤健二 | 65 | 昭和53 | 渡辺茂美子 |
| 54 | 昭和42 | 市川 愉 | 58 | 昭和46 | 末木一夫 | 65 | 昭和53 | 山田健久 |
| 54 | 昭和42 | 市川春子 | 58 | 昭和46 | 千田耕平 | 66 | 昭和54 | 井上 豊 |
| 54 | 昭和42 | 金森朱美 | 58 | 昭和46 | 穂苺 茂 | 66 | 昭和54 | 井上彩子 |
| 54 | 昭和42 | 小木曾周子 | 58 | 昭和46 | 松田閑枝 | 66 | 昭和54 | 鹿田史紀 |
| 54 | 昭和42 | 庄司孝市 | 58 | 昭和46 | 三石知恵子 | 66 | 昭和54 | 加藤浩嗣 |
| 54 | 昭和42 | 長谷見蓉子 | 58 | 昭和46 | 村上 学 | 66 | 昭和54 | 金子美代子 |
| 54 | 昭和42 | 森川礼子 | 58 | 昭和46 | 村田悦郎 | 66 | 昭和54 | 金田 平 |
| 54 | 昭和42 | 山口征司 | 58 | 昭和46 | 吉富恭助 | 66 | 昭和54 | 川崎英之 |
| 54 | 昭和42 | 大内力男 | 59 | 昭和47 | 石田志津子 | 66 | 昭和54 | 金原祐吉 |
| 55 | 昭和43 | 阿部 啓 | 59 | 昭和47 | 井本直樹 | 66 | 昭和54 | 草柳淳子 |
| 55 | 昭和43 | 石橋嘉夫 | 59 | 昭和47 | 駒田由美子 | 66 | 昭和54 | 鈴木千世 |
| 55 | 昭和43 | 井上みどり | 59 | 昭和47 | 清水善行 | 66 | 昭和54 | 原 信行 |
| 55 | 昭和43 | 梅本美智子 | 59 | 昭和47 | 松本茂外志 | 66 | 昭和54 | 真船恭子 |
| 55 | 昭和43 | 太田晴美 | 59 | 昭和47 | 三輪 保 | 66 | 昭和54 | 道見茂樹 |
| 55 | 昭和43 | 柿崎直和 | 59 | 昭和47 | 村上香代子 | 66 | 昭和54 | 道見優子 |
| 55 | 昭和43 | 鈴木 隆 | 60 | 昭和48 | 加藤マリ子 | 68 | 昭和56 | 益見厚子 |
| 55 | 昭和43 | 滝沢春美 | 60 | 昭和48 | 北山 緑 | 68 | 昭和56 | 笹又理央 |
| 55 | 昭和43 | 中野典子 | 60 | 昭和48 | 田中加代子 | 69 | 昭和57 | 小林真弓 |
| 55 | 昭和43 | 牧野由紀子 | 60 | 昭和48 | 末木愛子 | 69 | 昭和57 | 塚本尋子 |
| 55 | 昭和43 | 松野 萌 | 60 | 昭和48 | 鈴木むつ子 | 69 | 昭和57 | 野尻幸子 |
| 55 | 昭和43 | 南 菖子 | 60 | 昭和48 | 千田豊子 | 69 | 昭和57 | 松井真樹子 |

| 回 | 年卒 | 氏名 | 回 | 年卒 | 氏名 | 回 | 年卒 | 氏名 |
|----|------|-------|----|------|-------|-----|------|------------------|
| 69 | 昭和57 | 竹内 誠 | 76 | 平成元 | 畠山伸二 | 86 | 平成11 | 大野いずみ |
| 70 | 昭和58 | 岩浅真弓 | 77 | 平成2 | 浦垣美幸 | 86 | 平成11 | 鵜飼政志 |
| 70 | 昭和58 | 浦本博志 | 77 | 平成2 | 紺谷 徹 | 86 | 平成11 | 鈴木智之 |
| 70 | 昭和58 | 遠藤義之 | 77 | 平成2 | 増本純也 | 87 | 平成12 | 穴澤和美 |
| 70 | 昭和58 | 大塚幹子 | 77 | 平成2 | 的場義典 | 87 | 平成12 | 森口博行 |
| 70 | 昭和58 | 工藤知子 | 77 | 平成2 | 山本善一 | 88 | 平成13 | 内野 章 |
| 70 | 昭和58 | 茂呂今日子 | 77 | 平成2 | 齋藤みのり | 90 | 平成15 | 山木陽子 |
| 71 | 昭和59 | 大川恵子 | 77 | 平成2 | 織部幸子 | 95 | 平成20 | 市原克則 |
| 71 | 昭和59 | 黒田豊志 | 78 | 平成3 | 坂東裕志 | 95 | 平成20 | 竹野伸洋 |
| 71 | 昭和59 | 近藤高史 | 79 | 平成4 | 鈴木 寧 | 97 | 平成22 | 宅間祐太郎 |
| 71 | 昭和59 | 小澤佐余子 | 80 | 平成5 | 井上幸江 | 98 | 平成23 | 荻谷有希 |
| 71 | 昭和59 | 鈴木敏彰 | 82 | 平成7 | 鎌倉昌博 | 99 | 平成24 | 今井亮太 |
| 71 | 昭和59 | 永田嘉弘 | 83 | 平成8 | 東 美恵 | 101 | 平成26 | 清水芳美 |
| 71 | 昭和59 | 松井哲夫 | 84 | 平成9 | 金子卓嗣 | | | 旧職員及び大学院修了生 渡辺和夫 |
| 72 | 昭和60 | 小林 讓 | 84 | 平成9 | 木村 徹 | | | 旧職員及び大学院修了生 谷村 徳 |
| 72 | 昭和60 | 嵯峨 学 | 84 | 平成9 | 宅和知文 | | | 旧職員及び大学院修了生 中込和哉 |
| 72 | 昭和60 | 根岸邦枝 | 84 | 平成9 | 石崎雅之 | | | 旧職員及び大学院修了生 根本信雄 |
| 73 | 昭和61 | 阿部浩之 | 85 | 平成10 | 川邊香代 | | | 旧職員及び大学院修了生 大橋養賢 |
| 73 | 昭和61 | 阿部裕子 | 85 | 平成10 | 石嶋文枝 | | | 旧職員及び大学院修了生 竹口紀晃 |
| 73 | 昭和61 | 石坂浩文 | 85 | 平成10 | 高瀬明子 | | | |
| 75 | 昭和63 | 塚本由弥子 | 85 | 平成10 | 本田唯子 | | | |
| 76 | 平成元 | 朝倉 渡 | 85 | 平成10 | 岡田英之 | | | |

薬多津三金会 今年の開催日

5月19日（金）、6月16日（金）、7月21日（金）、8月18日（金）、9月15日（金）、
10月20日（金）、11月17日（金）、12月15日（金）

毎月欠かさず第3金曜日午後6時30分頃から牛タンを食べながら呑んでいます。

多津よし 東京都豊島区東池袋5-9-6

有楽町線「東池袋4番出口」より徒歩3分

電話：03-3985-8776

— 首都圏支部年会費振込みのお願い —

これまで、支部の資産減少対策として、年会費1,000円以上への変更、利便性を上げるためのコンビニ振込の採用などの策を採ってきました。

これらの効果が出てきたようで、若干ですが赤字額が改善しつつあります。この趣旨を汲んでいただき、首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

なお、コンビニ用の振込用紙には振込手数料を含めた金額が印刷してあり、首都圏支部には丁度1,000円が入金されることとなります。

また、このコンビニでこの用紙を使用する場合、振込金額の変更はできないため、別途支部活動への寄付金用の振込用紙を同封してあります。

当会は他に収入がなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを、是非ご理解賜りたいと存じます。

会費を振り込んでいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。よろしくお願ひ申し上げます。

— 編集後記 —

今年の首都圏遠久朶には、永年にわたって首都圏支部の活動に携わっていただいていた、柿崎さんを偲んで投稿をいただきました。本部薬窓会HPにも平成28年は学生時代にお世話になった西先生、小橋先生の訃報連絡が掲示されており、寂しい限りです。合掌。

首都圏支部の資金については、ここ数年減少の割合が減りつつありますが、最大の懸案事項であることに変わりなく、何とか現状の年会費を維持しつつ、首都圏遠久朶の発送を継続したいと考えています。首都圏支部の運営を若い世代にきちんと引き継ぐためにも、総会や遠久朶をこれまで以上に魅力があり、充実したものとするべく、役員一同これからも努力を続けていく所存です。

裏表紙がカラー版になって4年目です。印刷版面の組み合わせでそれ以外のページにもカラー写真を載せられます。写真を趣味にしている方がいましたら、自慢の写真をいただければ掲載いたします。

ここ数年、富山での本部総会後の卒業謝恩会に支部長他が出席して、首都圏に就職する新卒生に首都圏支部を紹介し、就職後の連絡先を聞き出して連絡しています。昨年は4名の新卒者が支部総会に出席してくれました。今年もまた新卒者の総会への出席が期待されますので、皆様の定期総会へのご出席をよろしくお願ひいたします。

(幹事長 66、S54年卒 道見 茂樹)

事務局等連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

(株)同窓会事務局：info@egaomax.com

富山薬窓会首都圏支部幹事長

道見：toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

平成29年度「薬窓会首都圏支部総会」のご案内

日 時：平成29年6月24日（土） 14時00分～18時30分

場 所：総 会「ビジョンセンター東京」部屋は調整中

懇親会「ビジョンセンター東京」部屋は調整中

住所：東京都中央区八重洲2-3-14 電話：03（6262）3553

会 費：男性：8,000円、女性：6,000円（ご夫妻で出席の場合 13,000円）

平成15年3月～平成24年3月の卒業生：5,000円（男女とも）

卒業後5年まで（平成25年3月～29年3月）：無料

話題提供 ① 齋藤みのり氏（第77回卒）

「新しい薬を作る：ドラッグリポジショニングー古くて新しい手法」
（アステラス製薬㈱ 研究本部）

② 中西 憲幸氏（第60回卒）

「薬剤師業務の新たな地平ー箱出し調剤、リフィル処方箋、検体測定ー」
（一般社団法人ソーシャルユニバーシティ）

* 総会に出席された方には、薬剤師研修シール（1点）をお渡ししますので、希望される方は受付まで申し出てください。

* 同期の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。





平成28年度薬窓会首都圏支部総会（平成28年6月25日、於 ビジョンセンター東京）